

小規模多機能居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	エフビー介護サービス㈱	代表者	柳澤 美穂	法人・事業所 の特徴	「ケアライフ春日」は、住宅型有料老人ホーム・訪問介護・小規模多機能型居宅介護事業所・通所介護・居宅介護支援事業所を同敷地内に併設した、上越市初の複合型施設です。'自分らしさ'を大切に、住み慣れた町での暮らしを支えます。					
事業所名	小規模多機能あったかほーむ春日	管理者	藤田 梨恵							
出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	合計	
		1	1	1	1	1	1	1	7	
項 目	前回の改善計画		前回の改善計画に対する取り組み・結果		意見		今回の改善計画			
A.事業所自己評価の確認	事業所も目標、職員各自の目標を明確にし、目標達成に向け職員一人一人が必達出来るように意識を高く持ち取り組む。小規模だから出来る事は事業所の強みになり、住み慣れた場所で利用者と関わりのある関係者、医療、介護、多職種チームで連携を図り一体的なサービス提供が出来るようにする。		・全員が課題に取り組んで書面での聞き取りも出来ている ・意見は反映されているように感じました。		・コロナもあり事業所に訪れる機会はほとんどないので評価しにくい所もあるが会議録や通信等で様子を確認したり事業所の評価を見て職員さんが頑張っているのだと実感している。 ・職員も色々な企画や立案や町内行事参加等参加したいと思いはあり計画まで立てるのが感染症が発生してしまうと中止や延期になり、職員の気持ちが落ち込んで消極的になってしまい、積極性に欠けてしまった所がある。		事業所も目標に向け職員が連携をとりながら報告、連絡、相談を重ね意識を高く持ち日々の業務を遂行する。			
B.事業所のしつらえ・環境	事業所が相談しやすい場所になるように地域との関り方を増やし楽しみや生きがいを持てるように幅広く対応できる工夫をしていく。		・玄関先での対応が多いがいつもきれいだと思う。 ・防犯上夜間にも施錠している。 ・面会は制限していないので気軽に来ることが出来る（感染症の状況で変わります） ・世の中が不審者や熊の侵入、立てこもり事件等で防犯対策する中で介護保険上のルールもあるだろうけど、防犯の面で日中施錠は必要なのではないか？		・職員はいつも明るく元気に出迎えてくれる・利用に繋がらなかった方、利用が終了した方の介護相談も受けた。面会に来るといつも会えるのでうれしい。 ・ボランティアの受け入れも行い外部から楽しい時間の提供をして頂けた。 ・感染症の観点からどうしても委縮してしまう傾向がありホームでのレクリエーションをメインにすることが多かった。		事業所の活動や存在を幅広く知っていただく努力をする。環境整備を実施し常に居心地の良い空間にして相談しやすい場所を提供を目指す。			
C.事業所と地域のかかわり	利用者様、関わる方の悩み事を聞き、それぞれの地域での関わり方が違うので事業所への取り組みを理解していただけるよう、お互いの意見交換できる場所を作り情報共有することで幅広くサービス提供をしたい。		・職員さんはみんな元気ですね。 ・地域のイベントに行く前になると感染症が流行し参加できないことが多い。 ・相談するとサービスに組み込んでもらえるので助かる。		・情報の回転が速い時は伝達しきれず大変な時もある。 ・内部での提供が限界なこともあり外部に提供をお願いしたらどうか。 ・最近エフビー通信がないから頑張って継続してね。 ・利用者様に出来る事が維持できるような支援には取り組んでいるが、結果が出ない時もあった。 ・感染症で人員が不足し色々なことが対応できないこともあった。		利用者様が住まわれている地域に事業所の存在をアピールしていく。 外部ボランティアや多職種と共に連携しながら利用者様の楽しみや生きがいにつながるようなサービスを提供していく。			
D.地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	まだ感染症関係で制限はあると思うが各利用者様の地域活動や関りを確認することで少しでも地域の活動に参加出来るように声をかけていく。その際は事業者の活動も知って頂きお互いの利用者にとって協力者になれるよう各関係性を目指す。		・運営推進会議で色々な利用者様に参加して頂けた。 ・感染症の事があるとイベントの参加に委縮してしまう方も多かった。 ・近所の畑で野菜がたくさんとれると差し入れで頂いたり、近くの子供たちがジュースを買いに来た際に利用者様と話したり七夕飾りを飾ることもあった。		・利用者様に関わる近所の方や地域の人とも顔なじみになれるような関係を持てた。 ・利用者様が地域のイベント参加は家族の協力を得られれば出来る方もいた、町内の方が理解されて受け入れてくれるところもあった。		高齢者が町内と関わる際は各町内会により対応が違うので、それぞれの地域での活動を聞く機会を持ち利用者様がどのように関わる事が可能かを確認していく。 地域に関わらず外部イベントや子供たちが関われるような環境の提案も提供していく。			
E.運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議のテーマを毎回決めることにより意見交換しやすい内容にする。それぞれの役割が繋げるような関係性になる努力をする。		・事例紹介から困っていることの相談等を行うと意見を沢山頂いたりアドバイスや実際に実現できる状況にまでなり感謝しています。 ・地域の現状も確認することでそのような対策をしているんだと確認することが出来た。 ・レクリエーションや研修など工夫されたり勉強しているんだと感心します。		・以前の地震等で町内の方も災害対策により要援護者の書類等も見直しになったりとより具体的になってきた。防災意識が高くなっている。 ・緊急時連絡が出来ない家族様がいる際はしつこいぐらいのかけてもいいと意見をいただく。 ・利用者様の作品を飾る場所がないかと相談した際も町内の方が可能なところで橋渡しして頂き今日現在も飾らせてもらい利用者様のやる気に繋がっている。		・事業所単体で考えるのではなく、地域と連携していく中で相互利益が生じる関係になれるように意見交換していく。			
F.事業所の防災・災害対策	災害を設定したマニュアルの作成は出来ているが、いろんな角度から見るとまだまだ課題が多い、それについて細分化を行い、いざという時の的確に判断できるようにした。		・災害時に避難所として使えるのは有り難い。 ・福祉避難所の防災訓練を実施することが出来た。 ・職員が防災訓練を定期的に行っているのは会議等で理解している。		・地域で行った災害訓練は濃霧体験を行い好評だった。このような訓練を今後もしたい。 ・福祉避難所の炊き出し訓練は出来なかった。色々なパターンを考えて訓練が出来ると良いと思う。		災害を想定した際の課題の細分化は継続していく。天災だけでは感染症等も想定した訓練も継続し、初期対応を確実に行う事で感染防止する。			